

令和8年1月7日

国土交通省 中国地方整備局長
杉中 洋一 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会
委員長

関根 雅彦

温井ダム定期報告書の総括について

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会は令和8年1月7日に温井ダムに関する定期報告の審議を行い、下記11名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

記

(敬称略 五十音順)

氏名	役職	専門分野等
井上 卓也	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授	河川工学
清家 泰	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 客員教授	水質
関根 雅彦	山口大学 名誉教授	水質
田原 博	日本野鳥の会 島根県支部 副支部長	鳥類
鶴崎 展巨	鳥取大学 名誉教授	動物
中田 和義	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 教授	魚類
三輪 浩	鳥取大学学術研究院 工学系部門 教授	河川工学
矢島 啓	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 教授	水環境
山田 知子	比治山大学 現代文化学部 教授	社会環境
吉田 圭介	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 准教授	河川工学
渡邊 園子	広島大学大学院 IDEC 国際連携機構 先進理工系科学研究科 准教授	植物

○「第36回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「温井ダム定期報告書」の審議を行った。
○審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の6項目について、令和2年度から令和6年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下のとおりである。

- 「防災操作」
評価期間である令和2年度から令和6年度の間ダム洪水量(400m³/s)を超えるような洪水が3回発生したが、必要なダム操作により所期の機能を発揮している。
今後、気候変動の影響により水害の激甚化・頻発化が懸念される。引き続き適切な防災操作を行うと共に、ダムが持つ治水上の効果を最大限発揮できるよう貯水容量の有効活用に取り組まれない。
- 「利水補給」
所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後も貯留水を適切に管理・運用し、受益地への利水補給を行われたい。
また、ダムの利水上の効果を最大限発揮できるように運用の高度化にも取り組まれない。
- 「堆砂」
貯水池内の堆砂量は堆砂容量の10%程度を占めているが管理上の問題は生じていない。適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況の把握に努められたい。
また、貯水池内の堆砂量の変動が安定傾向にあるため、洪水の発生に留意しながら効率的な堆砂状況の把握に取り組まれない。
加えて、近年堆砂量が増加していないことから、ダム上流域の状況および貯水池への流入土砂の実態の把握に努められたい。
- 「水質」
利水上の問題は生じてはいないが、下層の貧酸素化に伴うリンやマンガンの上昇傾向も見られる。このため、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続し、水質の問題について、必要に応じて対策を検討されたい。
特に、マンガンの溶出現象については、取水範囲内での濃度上昇の傾向を把握出来るような定期水質調査での対応について検討し、実施されたい。
- 「生物」
生物の生息・生育状況に大きな変化は確認されていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育状況と周辺環境の把握に努められたい。
環境保全対策については、一定の効果を発揮している。なお、下流河川環境改善のための土砂還元に関する取組についてはより効果が発現できるような手法を検討・実施し、効率的なモニタリングにより効果発現状況を把握されたい。
- 「水源地域動態」
温井ダムが果たす治水や利水の役割について、その貢献状況が地域や受益地に広く理解されるように継続的かつ効果的なPR活動やサポートに取り組まれない。
また、地域が温井ダムの地域資源としての価値を評価している。このため、インフラツーリズムの推進等、ダムを活用した地域活性化活動への効果的な貢献を果たすために、河川空間のオープン化の推進等、既存制度も活用し地域活性化活動に必要なハード・ソフト両面の環境整備に取り組まれない。
加えて、ダム管理者の体制や地域内外の担い手の状況を踏まえながら水源地域ビジョンの改訂とその推進に取り組まれない。

以上